



空を宙は博 岐阜かがみがはら
航空宇宙博物館
GIFU-KAKAMIGAHARA AIR AND SPACE MUSEUM

各務原市政記者クラブ同時配布資料
岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和6年6月17日(月)岐阜県発表資料		
担当課・係	担当者	電話番号
国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 地域協学センター、工学部附属宇宙研究利用推進センター	佐々木 実 宮坂 武志	直通・FAX 058-293-2541 直通・FAX 058-293-2523
航空宇宙産業課 産業振興係	鎌倉 光利 高井 淳	内線3762 直通058-272-8836 FAX 058-278-2653
各務原市 産業活力部 観光交流課	河瀬 悟史	直通058-383-9926 FAX 058-389-0765
公益財団法人岐阜かがみがはら航空宇宙博物館 学芸課	平野 好一	直通058-386-8500 FAX 058-386-9912

岐阜大学との連携事業

宇宙工学講座の開講式を開催します

県では、宇宙産業を岐阜県の中核産業として育成するため、岐阜大学と連携し、令和3年度に、ぎふ宇宙プロジェクト研究会を立ち上げました。

本年も、本研究会の取組みの一環として、今後の航空宇宙産業を担う人材育成を目的に、岐阜大学において宇宙工学講座を開講します。

については、下記のとおり開講式を開催しますので、お知らせします。

記

1 開講式等

日時 令和6年6月23日(日) 13:00～16:55

場所 岐阜かがみがはら航空宇宙博物館 シアタールーム
(各務原市下切町5-1)

概要 (1) 主催者あいさつ

岐阜大学学長 ^{よしだ かずひろ} 吉田 和弘 氏

(2) 協力機関ビデオメッセージ

(3) 受講生代表あいさつ

(13:30) (4) 講座概要説明

(5) 宇宙甲子園缶サット部門全国大会報告※1

(6) ぎふハイスクールサット※2 報告

(14:20) (7) 特別講演「火星衛星探査計画 MMX」※3

JAXA 宇宙科学研究所 教授/MMX プロジェクトマネージャ

^{かわかつ やすひろ} 川勝 康弘 氏

(8) 閉会あいさつ

岐阜大学地域協学センター長 ^{ますかわ こういち} 益川 浩一 氏

開講式後 グループワーク

2 宇宙工学講座の概要

日 程	令和6年6月～12月の水曜日（16時～17時）
講 師	岐阜大学教員、JAXA職員 他
受 講 者	県内高等学校及び高等専門学校の学生
受 講 料	無料
受講方法	岐阜県教育委員会のWeb会議システム(Webex)を利用し、各受講生の所属校及び個人において受講
主 催	岐阜大学（地域協学センター、工学部附属宇宙研究利用推進センター） 岐阜県
共 催	各務原市、岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、独立行政法人国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校、国立大学法人東海国立大学機構 航空宇宙生産技術開発センター
後 援	一般社団法人岐阜県工業会、中日本航空専門学校
協 力	JAXA、プラネットサイエンス

3 年間スケジュール及び内容（予定）

回	実施日	内容（講座テーマ）	場所
開講式	6月23日（日）	缶サット甲子園全国大会報告 特別講演「火星衛星探査計画MMX」 グループワーク	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館
1	7月3日（水）	モデルロケット・缶サットを 2000mまで打ち上げるには？	所属校
2	7月17日（水）	超音速飛行から宇宙へ	所属校
3	9月4日（水）	宇宙軌道とロケット	所属校
4	9月18日（水）	宇宙機の電力システム	所属校
5	9月25日（水）	宇宙機の信号処理	所属校
6	10月2日（水）	無重力環境とその利用	所属校
見学	10月5日（土） 10月6日（日）	国立天文台野辺山宇宙電波観測所（長野県） JAXA筑波宇宙センター（茨城県）	同左
7	10月16日（水）	軌道上実験プロジェクトの実際	所属校
8	10月30日（水）	宇宙科学の最前線	所属校
9	11月13日（水）	多波長観測で探る宇宙の極限現象	所属校
閉講式	12月21日（土）	修了証書授与、特別講演	岐阜大学講堂

※テーマ名、講座順は変更になる可能性があります

※1 宇宙甲子園缶サット部門全国大会報告

宇宙甲子園缶サット部門全国大会 2023 に出場した参加チームから結果などを報告

宇宙甲子園缶サット部門とは、高校生が自作した缶サット（飲料缶サイズの模擬人工衛星）をロケットで打上げ、各自で設定したミッションを実行し、技術力や独創性、斬新さや「coolさ」を競うもの

【参考】 HP: <http://www.space-koshien.com/cansat/index.html>



※2 ぎふハイスクールサット

ぎふ宇宙プロジェクト研究会の取組みの一環として、岐阜大学が行う人材育成事業の一つで、令和6年度の打上げを目指して県内工業高校生が小型人工衛星の設計・製造・打上げ・運用までを一貫して行う実践的な高度宇宙技術者育成プログラム。

ぎふハイスクールサットフライトモデル



【仕様】

寸法：縦 10cm×横 10cm×高さ約 20cm（2U）

質量：1.6kg

搭載予定機器：コンピュータ、カメラ（近赤外、4K、広角等）、
バッテリー、太陽電池パネル、各種センサ
（温度・ジャイロ等）

※3 特別講演「火星衛星探査計画 MMX」について

火星衛星探査計画 Martian Moons eXploration（MMX）は火星衛星フォボスからのサンプルリターンミッションである。2026年度の打上げに向けて開発が進められており、2031年度に人類初の火星圏からのサンプルを地球に持ち帰る計画である。MMX が入手するフォボスのサンプルの分析を通じて火星衛星の由来を明らかにするとともに、初期の太陽系で有機物や水がどのように移動し、天体に供給されたかの解明に貢献する。

また、MMX がフォボスから採取するサンプルの 0.1% は火星から飛来した物質と推定されている。火星圏に滞在する 3 年間の火星自身の観測、および火星近傍の環境計測とあわせて、火星圏の進化史にも新たな知見を加える。

さらに MMX は、国際宇宙探査の主たる目標である火星圏に対する日本の取組みの一番手に位置付けられ、有人探査の軌道上拠点と目される火星衛星の詳細情報を取得する。

本講演では、MMX の概要と開発状況を紹介する。

<講師> JAXA 宇宙科学研究所教授/MMX プロジェクトマネージャ 川勝 康弘 氏

1968 年京都市に生まれる。

1991 年東京大学工学部航空学科を卒業後、東京大学大学院工学系研究科（航空宇宙工学専攻）に進学、1996 年、東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了。

1997 年、宇宙開発事業団（NASDA、当時）に入社、2003 年の宇宙三機関が統合、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の発足とともに宇宙科学研究所に着任、2018 年より教授。宇宙飛行力学、深宇宙探査のミッション・軌道設計の研究に従事し大学院生を指導するとともに、かぐや、あかつき、他多数の探査機の開発、運用に従事。2015 年から始まった火星衛星探査計画の検討に参画、2020 年より火星衛星探査計画 MMX のプロジェクトマネージャ。